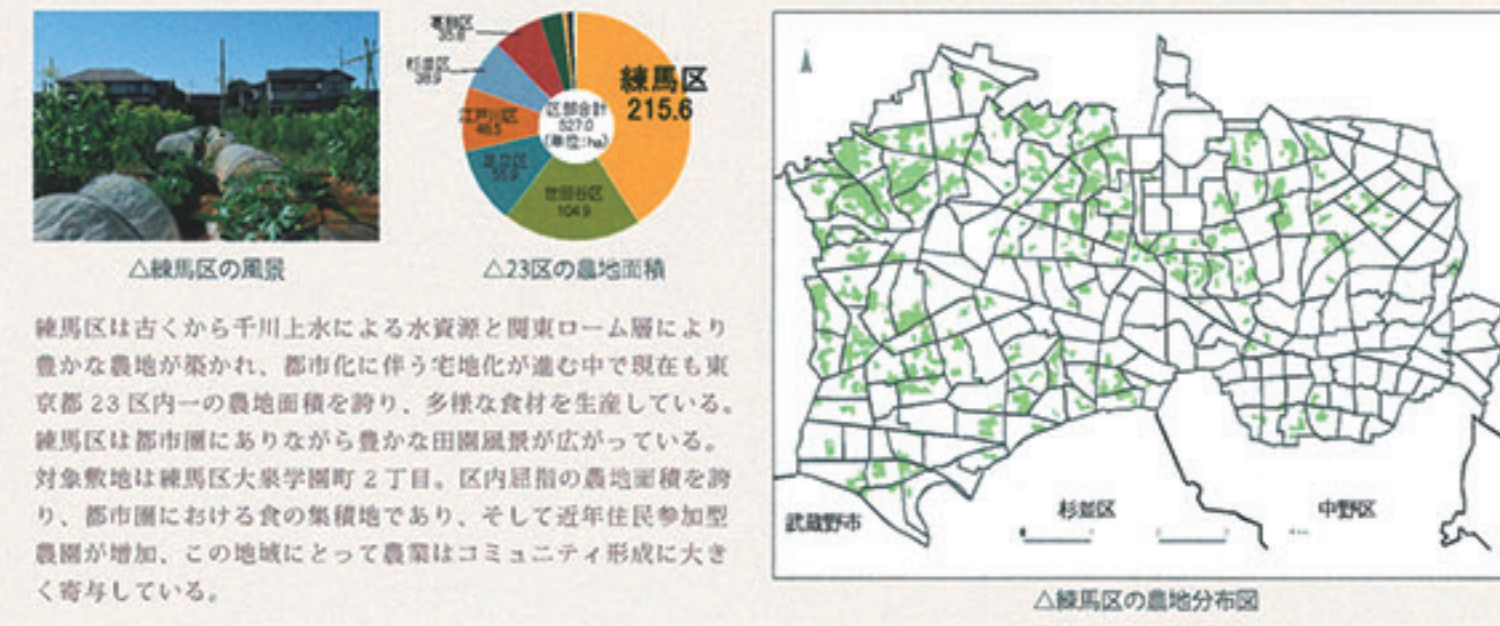


稼穡でつながる住まい

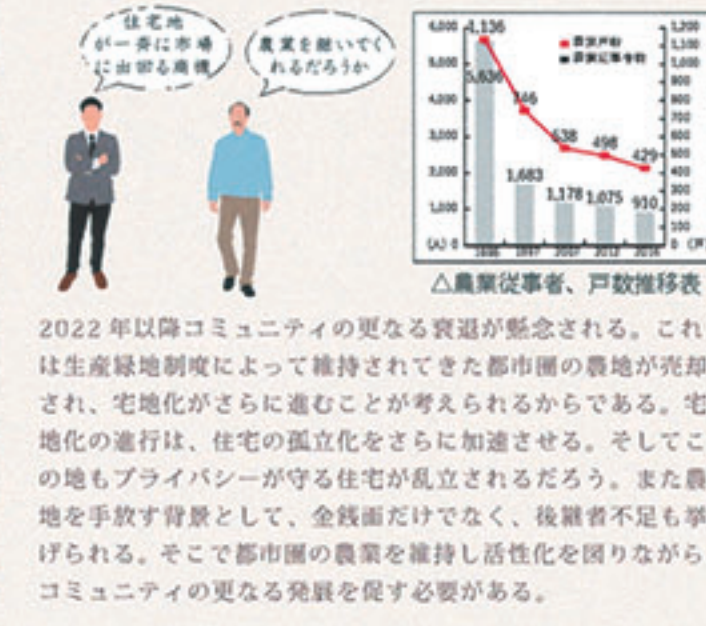
生産・加工・販売
- 農業六次産業化と共にある暮らし -

大泉学園では2020年以降、生産緑地の制度解除による農地売却が進み宅地化が加速することでコミュニティの崩壊が危惧されている。そこで宅地化が予想される農地に対し、キッチンやリビングといった住空間の一部が街に開けた住まいを提案する。これらを核にこの地域で農業を六次産業化し、生産・加工・販売を一体的に行っていくことでこの街に築かれてきた農業のコミュニティを維持し発展させていく。稼穡とは種をまき、収穫すること。稼穡を通して田園的で土着的な風景に囲まれた暮らしを提案したい。

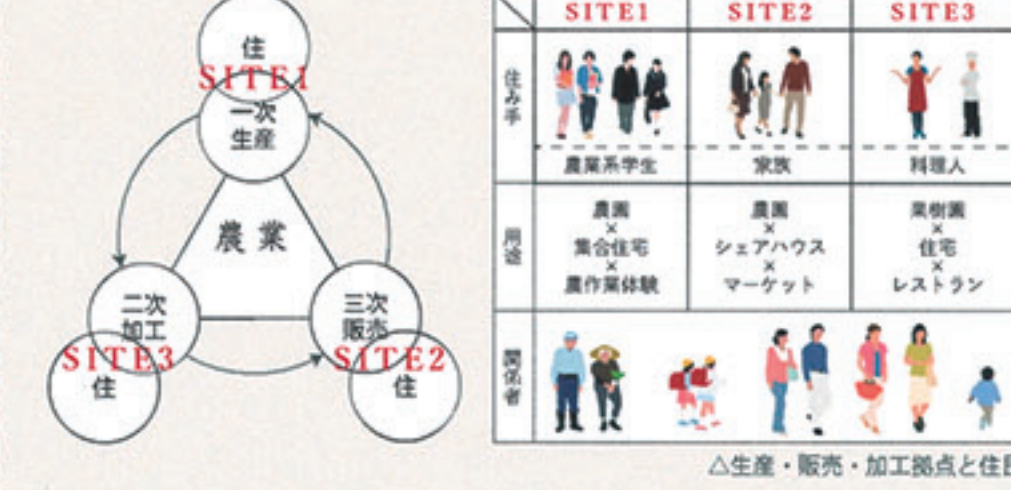
◇農業大国「練馬区・大泉学園」



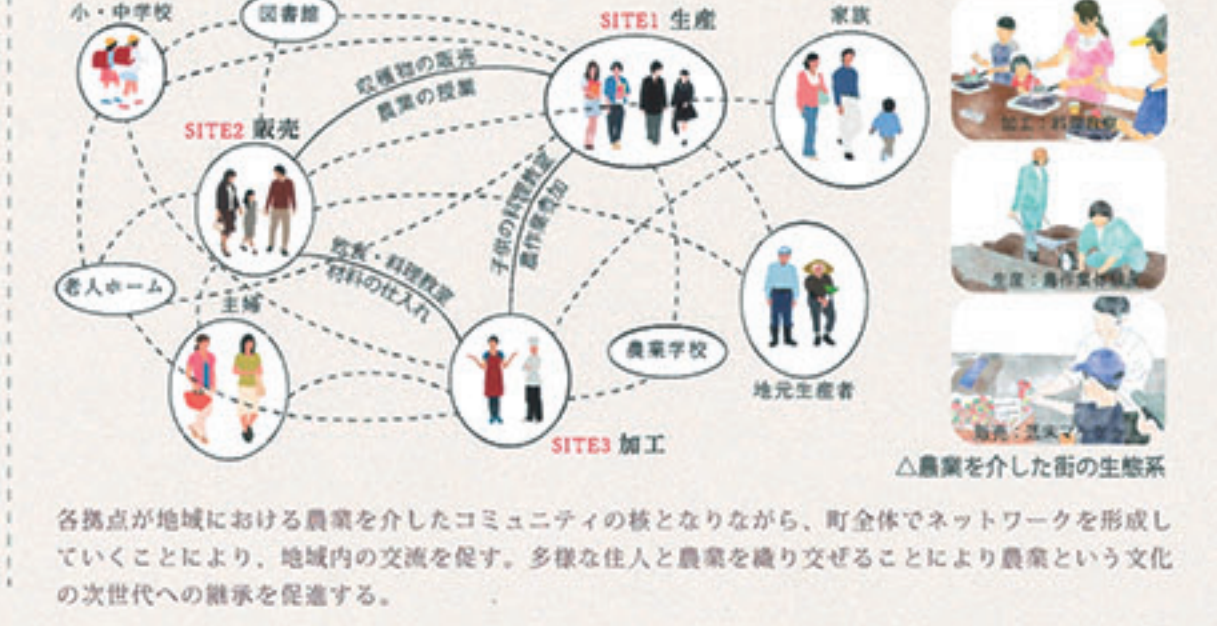
◇2022年問題



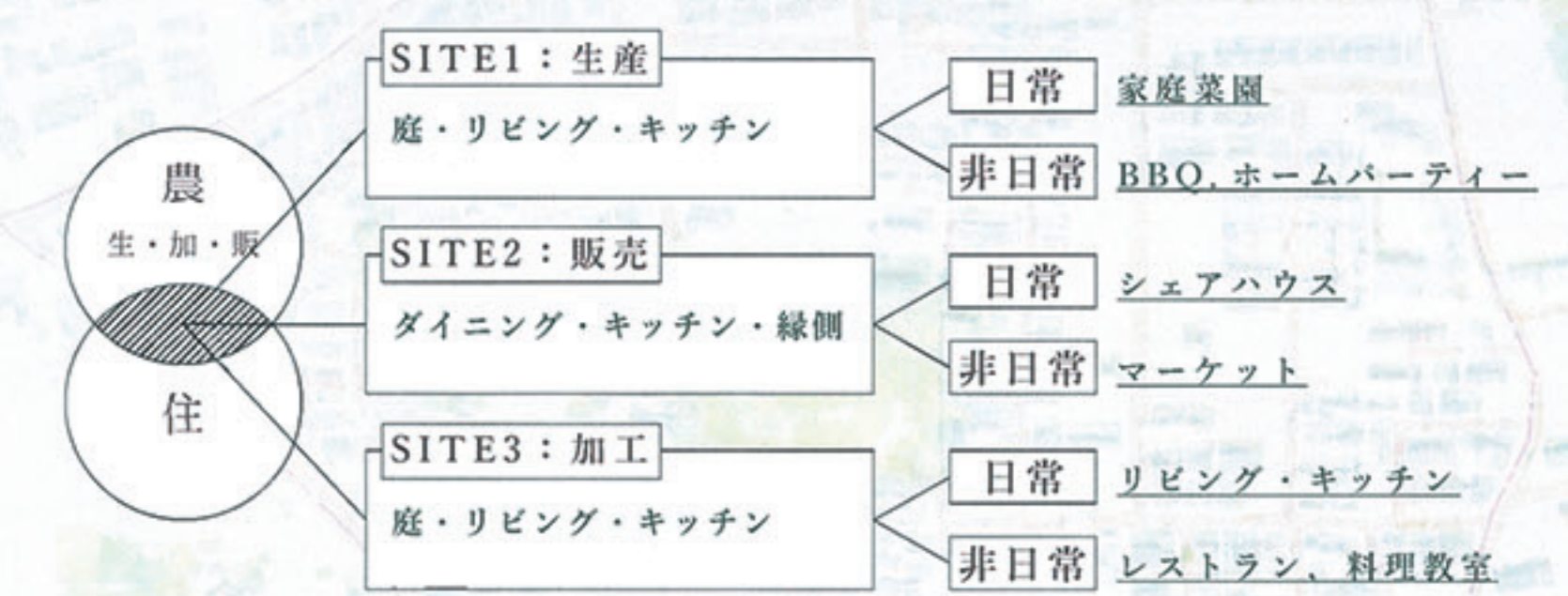
◇農業の六次産業化



◇稼穡がつながる街の人々

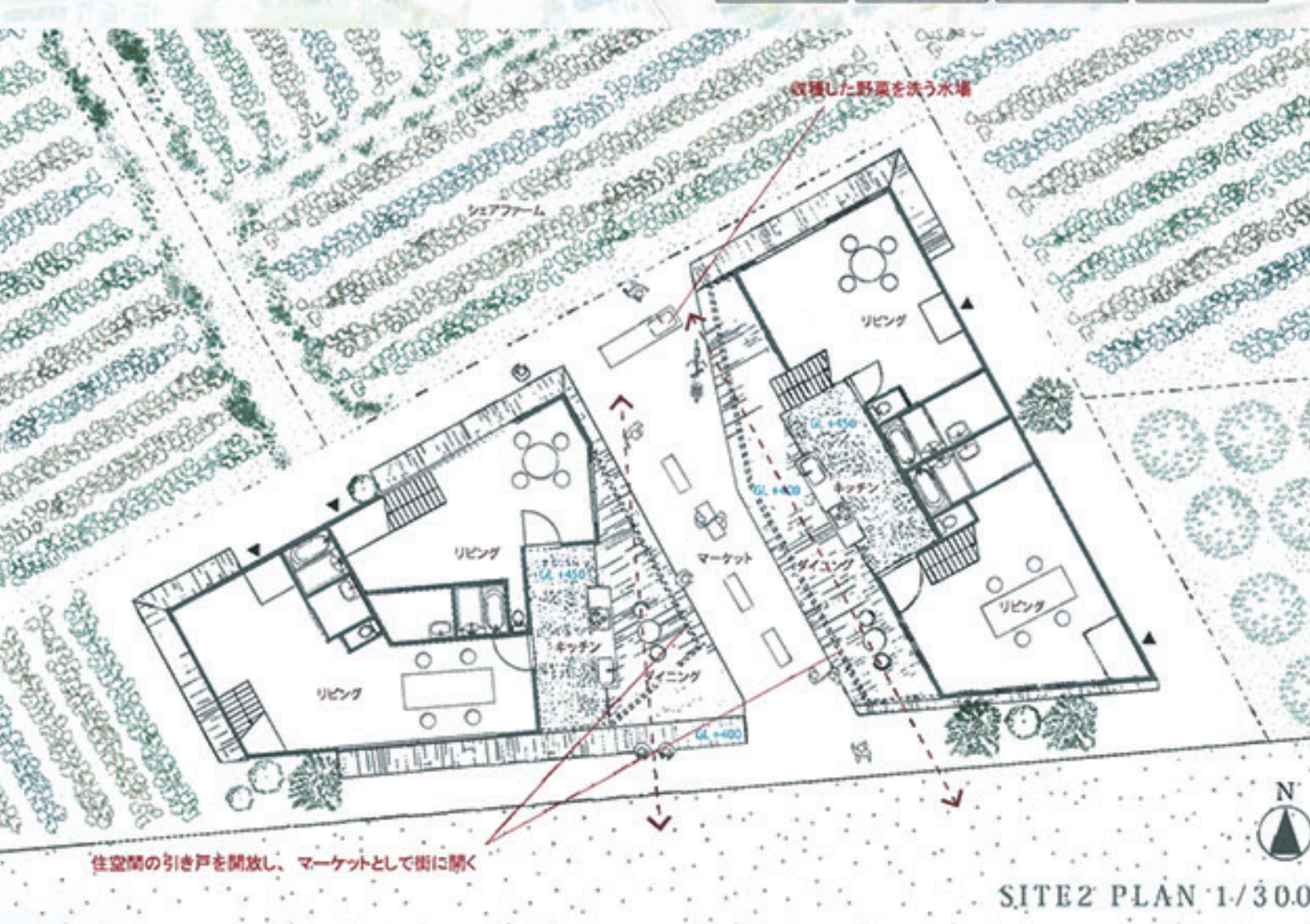
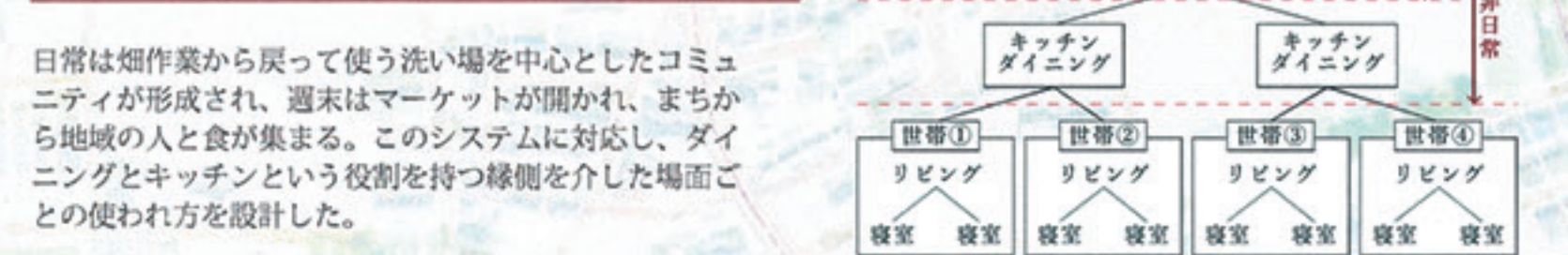


◇暮らしと農業の付き合い方

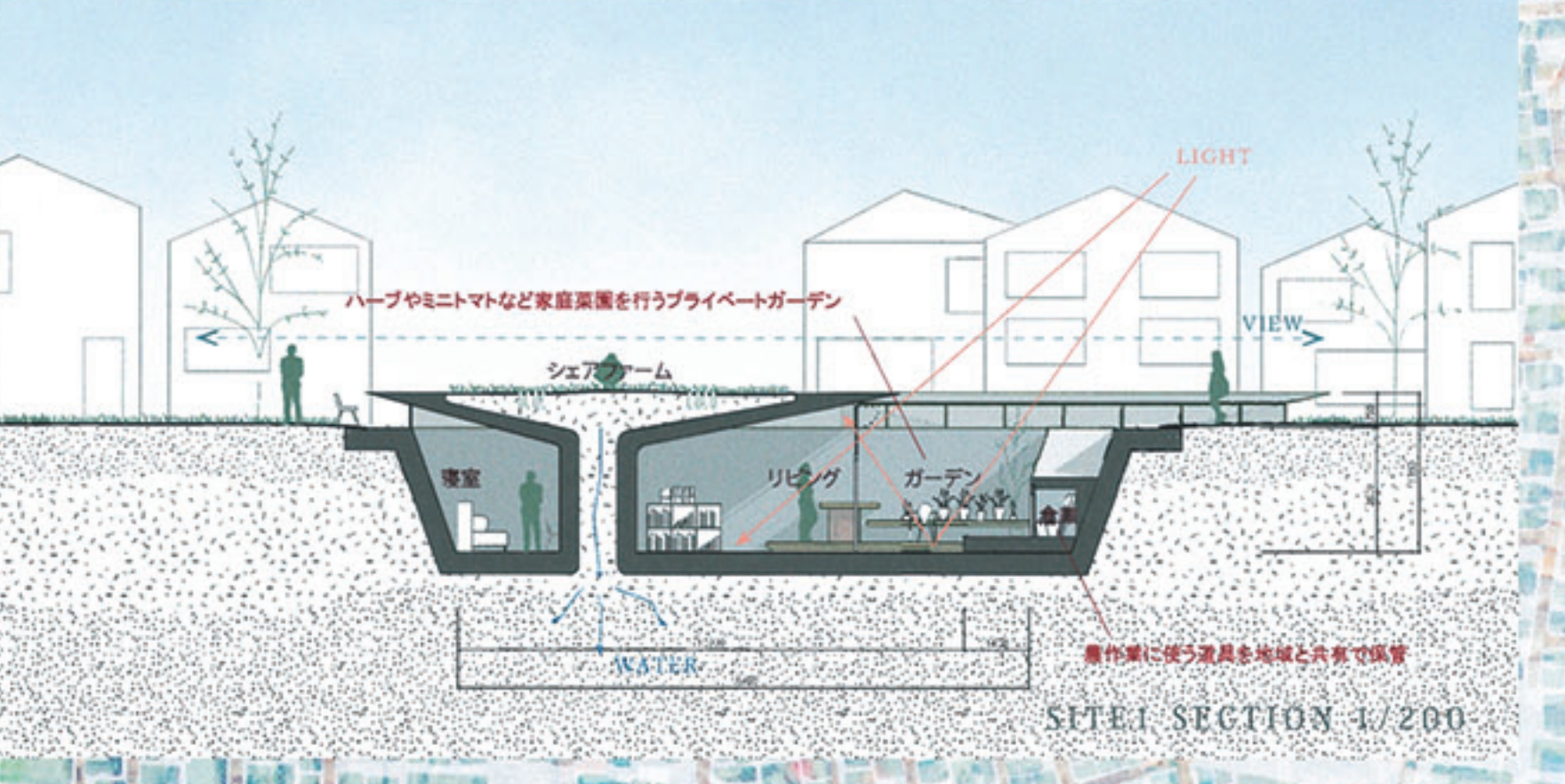
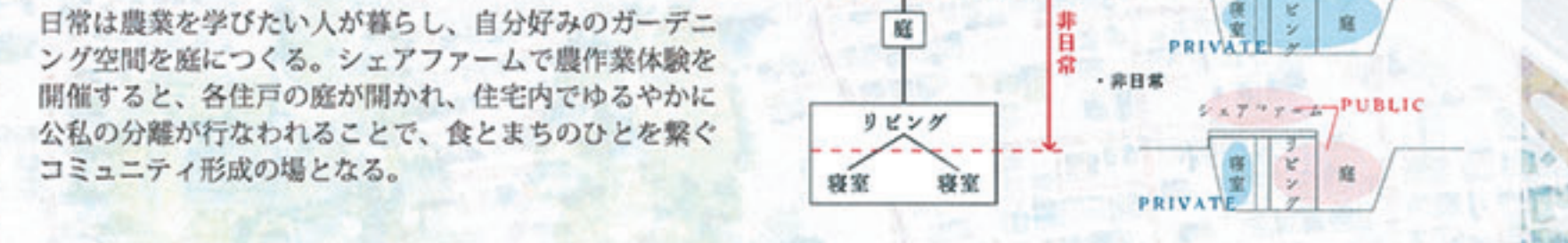


それぞれ住機能における室の一部を、農業における生産・加工・販売の機能を付加させていくことで街に開いていく。そして各拠点が時間的、もしくは場面的にその室をパブリック、またはプライベートな空間として使い分けることで建築的な公私の中間領域が変化する。

SITE2 農園×シェアハウス×マーケット



SITE1 農園×集合住宅×農作業体験



SITE3 果樹園×住宅×レストラン

